令和８年１０月５日
都市戦略整備委員会資料
都市戦略局都市再生課

旧門司駅関連遺構等の展示内容の方向性について

門司港地域複合公共施設建設予定地で発掘された旧門司駅関連遺構等の展示方策等について、専門家等から意見を聴取するため、令和７年度に「旧門司駅関連遺構等の展示方策等検討懇話会」を３回開催した。令和７年１１月には、懇話会の主な意見と、切出し遺構を複合公共施設内の展示コーナーに床下展示とする方針について中間報告を行った。

今回、門司の遺構の記憶をつなぐ「５つの方策」に基づき、懇話会の意見等を踏まえ、北九州市としての展示内容の方向性を取りまとめたので報告するもの。

１　展示の基本的な考え方

【目的：次世代への「記憶の継承」】

門司港地区の歴史、文化、産業、当時の人々の暮らしなどに思いを馳せることができる「地域の宝・地域の誇り」として、また、魅力ある観光資源として、市内外を問わず多くの方に情報を発信するとともに、次世代へ継承していくことを目指す。

（１）ストーリーでつなぐ空間

門司港地区の周辺施設との繋がりを意識し、地域全体の物語を体感できる展示

（２）魅せるデザイン×デジタル

レンガを模したデザイン壁面や、没入感のあるデジタル映像演出により、当時の様子を可視化する

（３）誰でも楽しめる展示

直感的な体験型の展示を取り入れ、歴史に詳しくない方や子どもたちも楽しめる工夫を凝らす

２　展示のイメージ

（１）複合公共施設内の展示

展示	内容
① 導入演出	あたかも列車に乗って旧門司駅へ向かっているかのような車窓映像により、ワクワク感を演出
② 体験型展示	子供が楽しく学びながら当時の技術を直感的に理解できる「のぞき込む展示」や「レンガ積み体験」
③ 壁面展示	土木技術の進歩を示す発掘成果や、当時の旧門司駅を物語る出土品について、壁面グラフィックや実物で解説する
④ 床下展示	実物の遺構と大型映像・照明演出を連動させ、当時のその場所に居合わせたような没入感を演出

（２）周辺施設等との連携

九州鉄道記念館や門司港駅等と連携し、地域を周遊しながら、門司港地区の歴史等を学べる仕組みの検討を進める。

３　今後のスケジュール

令和　８年１０月～　展示の設計・制作　着手

令和１０年度　　複合公共施設の供用開始にあわせて展示のお披露目

＜展示コーナーの全体イメージ＞